



ADRC Highlights

Vol.22

Asian Disaster Reduction Center Biweekly News

April 16, 2001

➤ 共通コード番号を利用して災害情報の共有を

□ ＜あなたの組織も共通コード番号を使いませんか＞

前号でお伝えしましたように、国際災害情報専門家会合（GDIN）において、災害の共通コード番号がパイロットプロジェクトとして採択されました。

現在数多くの組織が災害データベースを運用し、ホームページで公開もされています。また、新しい災害が発生した時には、災害が発生した国の組織だけでなく、海外の組織やマスコミなどが数多くの情報をインターネットで発信します。アジア防災センターもそのうちの一つです。災害が発生すると世界中の研究機関やマスコミのサイトを検索し、あるいは災害発生国の担当者にメールを出して災害に関する情報収集に努めます。その成果が最新災害情報のページです。

現在のやり方の問題点は、

- (1) 災害発生毎に各組織を検索しなければいけない
 - (2) 組織によって災害の名称が異なる場合があり、検索エンジンでも引っかからない場合がある
 - (3) 各組織のデータベースの構造やホームページの構造が変化するとリンクが途切れる
- などが挙げられます。

アジア防災センター最新災害情報

トピック 地震 : 1999/08/17

これに対して、共通コード番号を使うことによって、過去の自然災害のデータベースや新たに発生した災害データの検索が格段に容易になります。共通コード番号をもつ手順はたったの3段階です。

- (1) あなたのデータベースに共通コード番号のカラムを追加してください。
- (2) CRED が作成した過去の災害データをダウンロードしてください。（<http://www.cred.be/emdat/disdat1.htm>）
- (3) CRED が各災害につけた番号を(1)で作成したカラムに入力してください。

次に共通コード番号をキーにしてあなたのデータベースからデータを取得できるようにしましょう。

(4) 共通コード番号をキーにしてデータベースを検索してデータを表示するプログラムを作成してください。すでにデータベースを公開している組織の場合、既存のプログラムを一部修正するだけで対応できるでしょう。

さらに、あなたのデータベースを見に来た人が他のサイトの関連情報をすぐに参照できるようにしましょう。

(5) 各組織の URL と共通コード番号を埋め込んだリンクボタンを作成してください。

これであなたのデータベースは、共通コード番号で世界の他のデータベースと情報を共有していることとなります。

現在 ADRC と CRED、ReliefWeb が共通コード番号プロジェクトを推進しています。また、これらの手順をより容易に説明し、共通コード番号の導入を促進するためのマニュアルを作成する予定です。

みなさんのデータベースもどうぞ共通コード番号に参加してください。

➤ ADRC 地域協力プロジェクト実施状況

□ スリランカ、災害管理トレーニングプログラム

本誌第 20 号でお知らせしましたとおり、ADRC 地域協力プロジェクトの一環として、3/26～31 日にかけてスリランカで地方政府職員を対象にした研修プログラムが実施され、アジア防災センタースタッフが現地へ赴き実施に立ち会って来ましたので、結果を報告いたします。



スリランカでは、洪水、土砂崩れ、サイクロン、干魃といった自然災害が多発し、これに対応する地方政府職員の養成が急務です。今回の研修は国内 25 の郡(Division)政府の長、副長を首都スリジャヤワルダナプラコッテ (Sri Jayawardenepura) に招集して行われました。研修内容はレクチャーを中心に、フィールドトリップ、関係機関視察など 22 ものメニューがありました。レクチャーもグループディスカッションを取り入れたり、自主制作による普及啓発ビデオを放映したり、一方的な説明に陥らないよう配慮されていました。また、フィールドトリップでは、洪水多発地域の村人とともにタウンウォッチングするなどの工夫も見受けられました。

このようにメニューの多彩さ、豊富なリソースパーソンが目についた研修でした。さらに講義施設は政府の研修所で各種機材が用意されており、宿泊施設や食堂も配置されるなど、機能面、経費面とも申し分ないといえましょう。参加者の評判も上々で、今後同様の研修を 7 月、11 月に実施すること。研修の成果を受け、スリランカにおける地方政府レベルでの防災力の一層の向上が期待されます。

(主任研究員 青田良介)

➤ 芸予地震視察(平成 13 年 3 月 24 日発生、マグニチュード 6.4)

ADRC では、2001 年 4 月 9 日から 10 日の 2 日間、芸予地震の被災地の視察を行いました。視察においては震災から 2 週間余り経過していたためか、余り大きな被害は見られませんでした。被災地の多くは修復作業が終わっていたり、復旧作業が進みつつあり、人々の生活も平常どおり行われているようでした。

地震の規模に比較して被害が少なかったことや、復興が順調に進んでいるのは、95 年におこった阪神淡路大震災の後、十分な災害対策が取られてきたことによるとも言われています。しかし、我々の視察時においても公的支援を求めて市役所の災害対策センターを訪れる人々の姿を目にしました。今後も復興対策に注目をしていく必要があるでしょう。

ご意見・ご要望等があれば
右記までご連絡ください。

編集・発行： Asian Disaster Reduction Center (アジア防災センター)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-1 IHDビル3F

E-mail: editor@adrc.or.jp TEL: 078(230)0346 FAX: 078(230)0347

誌代・送料： 無料 / 毎月 2 回発行 (予定)